

津城跡（つじょうあと・第5次調査）

調査地で見つかるガラス製品

今回は調査区で見つまっているたくさんのガラス製品のうち、昭和前期（戦前）のガラス瓶を中心に紹介します。

調査地には津城が廃城となったのち、木造の安濃津地方裁判所が建てられましたが、昭和20年7月の津市空襲が当時の裁判所を含むこの一帯を瓦礫の山に変えました。調査でも江戸期の遺物を含む層の上に、昭和前期の遺物や瓦礫を含む層が厚く重なっている状況から、当時の被害状況を垣間見ることができます。

そして、この層から昭和前期、戦前のガラス製品・陶磁器が数多く見つかっています。なかでも、とくにガラス瓶が目立っています。「磯じ（志）まん」という海苔の佃煮の瓶、「大日本麦酒」とエンボスしたビール瓶や、現在の形に統一される前の牛乳瓶、病院名が記された薬瓶、製造会社を記した肝油瓶、現在とは大きく形状が異なる目薬瓶、インク瓶、ガラスペンなどといった、様々な形や色のガラス瓶が出土しました。

これらは戦前の人々の生活や「文化」を今に伝えてくれる貴重な資料であり、縄文土器などと同様、文化財として記録していくべき遺物でしょう。

次回は、最も広い調査区と隣接する北の調査区の成果について紹介します。



調査地から大量に出土した「磯じまん」の瓶
(口縁部形状から昭和前期の製品と推定)



ビール瓶や牛乳瓶などの飲料容器
(牛乳瓶には製造元・連絡先が記載)



目薬瓶（ロート・サンテ）、病院名の入った薬瓶、薬瓶、肝油瓶、ネオ肝精瓶



様々な形のインク瓶、ガラスペン（ペン先）

問い合わせ先

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

三重県埋蔵文化財センター

担当：土橋・長谷川

電話：0596-52-7028 Fax：0596-52-7035